



## 「年報いわみざわ」 発刊に当たって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡部, 俊夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9012">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9012</a>

## 「年報いわみざわ」発刊に当たって

岩見沢分校主事 渡部俊夫

教員養成にかかわる教育大学・教育学部について、それがいかにあるべきかという点をめぐっての論議は、多様な場で、多くの人によって随分なされてきました。その中でも小学校教員養成課程において、その体制がどうあるべきかは、特に重要な課題の一つであったと考えます。

長期にわたった岩見沢・札幌両分校の統合問題も、ついには両分校の単独整備の方向への探りをはじめ、当分校内においても昭和52年からは、小学校教員養成課程一本についての是非が論じられました。昭和54年4月の入学式には、この課程だけの185名を迎えております。この間の論究も到底熟したものとはいえ、体験的にもなお浅いわけではありますが、われわれの検討の跡を年報的にまとめてゆくことになりました。これは年輪をかさねて成長を遂げてゆくべきものであります。そのためにも、各方面からの忌憚のない御批判、御指導を切望しております。

小学校教員養成課程だけの分校——それはその編成からみて、いわば初等教育学部とも言うべきものと考えます。当分校においては従来、小学校教員養成課程115名と、中学校教員養成課程30名を募集しておりました。この小・中両課程の比率から、ここには初等教育学部の素地はあったとみることもできましょう。現在のこの分校の変化は、新しい形態への脱皮にすぎないとしても、したがって産みの苦しみとはゆかないまでも、それなりの、またそれなるが故の悩みを味わってきました。現実の一つの教育学部の中の1分校として、どこまで独自性を打ち出し得るのか、また、全国にも稀な附属校をもたない状態を、どのように補ってゆけるのかなど、構想を描いてゆく上での問題は沢山ありました。

このような現状に立って分校内では、将来計画委員会をはじめとする各種の委員会が、それぞれの分野で精力的に検討を継続してまいりました。この努力の結果は、僅かずつながら具体化されてきております。そうした中の大きな一つに、総合教育部の発足があります。それは、これまでの伝統的な学問・芸術の枠をこえて、種々の領域の研究者が協力し、小学校における現場の教育に関する研究を進め、それを大学での教育面に活かし、さらには教育実践の面にも貢献しようというところに根ざすものであります。この年報の創刊も、その総合教育部の事業の一つであります。

幸いなことに、この間に各方面からの暖かい御支援を得て、新しい出発にふさわしい建物をもつことができました。関係各位の御厚情に深い感謝を捧げると同時に、それに報いるためにも、内容面においての充実に向け、決意を新たにいたしているものでございます。